

2013.08.31

今日は8月30日。わたしは自分が喜んだらいいのか、悲しんだらいいのかさっぱり分からない。

今日はわたしたちの別れの日。短い間だったけれどたくさん友達が出来た。寮での生活はつらいこともあったけれど、いつでも仲間がそばにいてくれてそれがすごく救いだ。時間が経つのはほんとにあっという間で、気付いたらもう別れの日がやってきていた。これから先、どうかみんなが毎日楽しく、素敵な思い出をつくれるよう祈っています。この一年間、きっとわたし達の前には色々な困難が立ちはだかるはず。けれど同時に、きっとたくさん嬉しいことや楽しいこともあるし、多くの人がわたしたちのことを応援してくれてる。そんな充実した未来をわたしは心から期待しています。

今日、わたしは福岡へ向かって出発しました。色々な原因があって、わたしはみんなよりも1日長く東京に滞在したんだ。学校の先生はすごく優しく親切だし、明るくてすごく話しやすい方だった。ほんとはもっと真面目で怖い人かと思ってたんだけど、そんなこと全然なくてすごく意外だった。その先生はいつでもここにこしていて、なんかもうその笑顔だけでどんなことでも乗り越えられそうな気がする。

午後、わたし達は一緒に明治神宮に行きました。ここ何日か東京はすごく暑かったけれど、明治神宮は周りが青々とした木々に囲まれていて、時々涼しい風も吹いたりして、なんだか急に涼しくなったような感じがしました。新鮮な空気を胸いっぱい吸い込んで、なんだか気持ちまでさっぱりした気分。それからラッキーなことに、ちょうど和装の結婚式も見ることが出来たの。花嫁だけが全身真っ白い衣装を身に着けている他は、みんな黒い服を着てた。それから赤い大きな和傘をさしている人もいて、ほんとに壮観だった。最初先生が説明してくれなかったから、わたしは、みんな黒い服を着て、なんだか儼かな感じだし、てっきり葬儀かなかかかと思ってたんだけど、いやぁ知識がないって怖いね。そのあとおみくじを引いたんだけど、おみくじに 誠実は成功の元 って書いてあって、この言葉をぜひ肝に銘じようって思った。

道すがら先生とたくさんお話をした。わたしはまだ自分の思っていることをすらすらと言葉にすることが出来なくて、ひとつのことを言うのにもかなり苦労するんだけど、それでも先生は熱心にわたしの話を聞いてくれて、丁寧に返事をしてくれた。ほんと素敵な先生だなあ！先生が言うには、わたしはこの心連心プログラムで最初に彼女の学校に行った留学生らしく、かなり早い段階からみんな準備をしてくれていたらしい。わたしはもともと留学生用の寮とかに住むことになるのかなって思ってたんだけど、先生が日本の家庭にホームステイ出来るように手配してくれたの。学校の先生もわたしが来るのを心待ちにしてくれていたみたいで、茶道の先生なんて、きっとわたしが訪ねていくって思ったから、服まで事前に準備してくれてたし、学食のおばさんは毎日わたしにお弁当を作らなきゃいけないからって、あれこれ細かく質問してくれて、わたしが食べれないものがないように気遣ってくれてる。それからお弁当箱や、お箸、コップなんかも先生が準備してくれたし、部屋の中も色々用意してくれたんだ。わたしが簿記部に入りたいって言ったら、わたしが部活内の進捗についていけなかったら大変だと、特別にわたしだけに別の先生をつけてくれたの。なんていうかもう至れり尽くせりで逆に怖いくらい。こんなに細かく色々なことを手配してくださって感謝でいっぱいです。これからの生活がすごく楽しみだあ。

わたしは今回一番上のクラスに行くことになった。10人しかいないクラスなんだけど、普通の子よりも2時間多く授業があって、内容もどうやら違うみたい。もともとこのクラスの子は部活動には参加しなきゃいけないらしいんだけど、留学生っていう立場を考慮してくださり、わたしだけは特別に参加させてもらう予定。わたし自身彼らのテストとかについていけるかすごく不安なんだけど、精一杯がんばろうと思ってる。初めてこの学校に来た心連心の学生として、絶対に良いスタートを切って、お手本になって、みんなに良い印象を残さなくちゃ。

今回の留学はほんとにめったにない機会で、多分一生のうち一回しかめぐり合わないチャンスだと思う。わたしはここでのあらゆるチャンスを逃さず、日本生活をしっかりと体得して、これからの自分の人生に役立てて生きたいと思います。うん、がんばるぞ！👊

最後に、今回わたしのためにたくさん色々な準備をしてくださった先生方に心から感謝します。ありがとうございました。

never say never

2013.09.16

ずっと日記書いてなかったけど、多分ずっとネットに繋がってなかったせい。

こっちでの生活は思っていたよりも楽なものではなかった。やっぱり先生がおっしゃっていたように、たくさんの困難がわたしたちを待ち受けていて、わたしたちはそれを一つずつ乗り越えていかなくちゃいけないんだ。

まあまずは良いことから。わたしは他の人よりも1日遅く出発したんだけど、その日に、先生に連れられて斎藤一人愛弟子勉強会に行ってきたの。そこで斎藤一人さんの各種の功績を挙げ名を成した学生の奮闘経歴と斎藤一人さんの数々の言論について話を聞いた。斎藤一人さんは日本の中でもっともたくさんの税を納めている方で、言論を発表していた学生たちは皆毎月1千万円以上の売り上げをたたき出すエリート商人たちばかり。

その中で、人は、たとえどんなにひどい状況であっても、常にプラスなことを口にし、自分は本当は恵まれているのだと自分に言い聞かせなければいけないという話をしていた。例えば、斎藤一人さんがとある人たちと日本料理を食べに行ったときのこと。そこのお店は料理が運ばれてくるのが非常に遅く、周りの人たちはみんなすぐイライラしていたらしい。このとき、斎藤一人さんはこう言ったんだって：“今日我々は懐石料理を注文していないが、コックさんたちはどうやら懐石料理の手法で我々の料理を作ってくれているみたいだ。ラッキーなことではないか！”それを聞いて、どんなにひどい状況でも必ず良い一面を持っており、ポイントは自分がどう捉えるかによるんだなと思った。

“成功は未来にあるものではない。自分が歩いてきた道の中にあるのだ。そうして時々振り返り、溢れる自信を胸に前に進んでいくのだ。”

“遠い先の目標を理由に今の成功を放棄してはならない。大事なのは、今勝つことだ。”

一人さんはまだまだたくさんのお話を話していたけれど、わたしが唯一聞き取れて、もっとも印象深かったのが上に書いた内容です。

今思い返してみると、あの日、あの講座を聞きにいけて、ほんとにすごくラッキーだったなって思う。

わたしはその日の最終便で福岡へ向かった。その後何度も乗り継いでやっと寮にたどり着いた頃には、もう11時半を回っていた。わたしは期待に胸を膨らませて部屋のドアを開けた。部屋の中はすごく綺麗だった。布団や枕などの寝具は先生が一式新しいものを用意してくださっていたようで、それらは全て箱に入ったまま、もちろんシーツなどはかけられていなかった。タンスとかも新品で、組み立て式のそれは様々な部品がバラバラのままわたしに組み立てられるのを待っているようだった。もちろん服を干すための物干し竿も。それらを目にした瞬間急にどっと疲れが出てきてしまい、そのまま眠ってしまいたかったけれど、一枚の板しかないから、なんとしても全ての寝具を取り出して全て敷き終わらないことには眠れないわけで。疲れきった体ではもう不満を言う力すら残ってなくて、わたしは一つため息をついた後、一気に全ての片付けを終わらせた。我ながらすごいと思う。

その後の何日か、わたしはクラスに中々溶け込むことが出来なかった。みんな誰一人としてわたしのことを気に留めてくれる人はいなかった。わたしはなんとかしてみんなに近づこうと、頑張って話にも入ってみたりしたけれど、結果報われることはなかった。中国からのお土産もプレゼントして、自分で作った名刺まで配ったのに。

そんな毎日が続いてついに私の中で何かが発火した。まだ覚えてる。あの日わたしはもともと次の教室の場所を聞こうと思って職員室に行ったんだ。ただ、そのとき先生がびっくりしたように：“また置いていかれてしまったの。”と零した一言で、その瞬間、わたしは泣いていた。わたしは心の中では、これは絶対にやってはいけないことだと分かっていた。けれどわたしは弱過ぎた。ほんとにだめだ。ちょっとした挫折でもう折れてしまうなんて、こんなのわたしじゃない。

そうわかってはいても涙は簡単には止められない。少ししてわたしが落ち着いた頃に、先生が話をしにきてくれた。

わたしは自分が思っていることを全て話した。先生と本当に長い間話をした。全てを吐き出してしまうと一気に気分が楽になった気がした。心の中のモヤモヤが全て消え去ったような気がした。わたしの話を聞いた後、先生はわたしのクラス替えを決めた。わたしがいたクラスも良いクラスではあったけれど、生徒がみなこんな感じだったから、わたしのこの1年の交流には適していないと判断してくれたらしい。この短い1年の中では一分一秒無駄には出来ないのだから。

その後新しいクラスに移ってから、状況はかなり良くなった。たくさん友達が出来たわけではないけれど、少なくともクラスの中で楽しくおしゃべりする仲間は出来た。もう少し待てばもしかしたら、彼らと本当に良い友達になれるかもしれない。

この先生たちはみんな本当にすごくよくしてくれてる。なにかあったらわたしは直接先生たちに伝えることが出来るし、先生達もそんなわたしを毎回快く迎えてくれる。面談だっていつも笑顔が絶えない。先生達のことをわたしは心から信頼している。先生って言うよりはむしろ、一番の友達と言った方が正しいかもしれない。なにがあってもお互いの間に隠し事はない。わたしは先生と過ごす一分一秒をすごくすごく大切にしている。ほぼ毎日先生たちとお話をしているから、多分わたしの日本語は先生達との交流でどんどんレベルアップしていくんじゃないかな。

困難はもうすぐ目の前。もう後戻りは出来ない。わたしは笑ってそれらを迎え撃とうじゃないか。絶対にあきらめない。 

Stay strong

2013.09.19

今日は最高のお天気、だって今日は大事な日、そう、体育祭なのです。

何週間も練習をして、やっと迎えたこの日。思い返せば、いつのまにか足と腿との間の色がくっきりとわかるほどかわってしまい、まさかたった何日かでこんなに黒くなってしまふなんて思ってもいなかったのが、うらやましくてくやしかったな。ほぼみんなできあがっていたし、私もみんなの足を引っ張りたくなかったので、ダンスには参加しないつもりでした。でも学校の先生が熱心にすすめてくれたおかげで、みんなが合同練習しているときに、そっと2年生の先輩に教えてもらっていました。その先輩は根気よく、ていねいにしかもやさしく一つ一つの動きを何度も繰り返して、私がちゃんと覚えられるように教えてくれたんだ。本当にとてもかわいらしい先輩です。しかもその先輩は音楽が流れるときも、私の横にいてくれて一緒に踊ってくれました。そのおかげですぐに踊れるようになりました。考えてみれば、やってできない事なんてないんですよね。やる気とそれをちゃんとやりぬけばね。今日のダンスはみんな完璧に踊り切りましたよ。見ていても、本当に素晴らしいかったです。

体育祭にはダンスだけではなく、30人が一緒に跳ぶ大縄跳びにもできました。はじめは、メンバーが足りないので数合わせにかりだされたのかなって、思っていました。本当は、ある同級生が、私が縄跳びがうまいと、ずっと推薦してくれていたんだとか。なんだか知らないうちに自分もそのメンバーになってみたい。今日の本番では、何故か練習の時のようにうまくいかなくて、いつも誰かが引っ掛かっています。みんなちょっと焦っていましたが、全員心を合わせて最後まであきらめずにやりとげました。そしてなんと、私たちのチームが勝ったのです。みんなにとってもこの結果は意外でした。思いがけないこの喜びのおかげで、ますます気持ちが高まりました。

声援のために大声を出すなんて、以前はばかばかしい、大勢の人がワアワア騒ぐなんて、意味がないと思っていました。でも競技中、みんなと一つに団結して感動していました。私たちRチームは人数が少なかったのですが、それを不公平だとは思っていません。みんなが自分の最大限の力を発揮し、他のチームの応援にも負けていませんでした。

この学校の体育祭は3チームに分かれて対抗します。最終合計点で、優勝チームを決めるのです。

私はRチーム。チームメンバーは競技にも全力でぶつかり、みんなすごくかっこよかったです。どの競技中も声援や拍手の音が響いています。でも私たちのチームはダンスと応援で一位が取れなくて、結果、総合二位になってしまいました。

残念で、近くにいた2年の先輩は結果を聞いた瞬間、泣き出してしまい、みんなで彼女を慰めました。私は中学2年生の時のことを思い出してしまいました。バレーボールの試合で、私はクラスのリーダー。私たちのクラスは他のクラスよりずっとたくさん練習をして、実力もあると言われていました。試合に全力で向かい、今でもその時のことは細かい事まではっきりと覚えています。私たちのクラスは負けてしまったのです。そのときは思いっきり泣いてしまい、気持ちの整理もつかなくて、さらには試合後すぐの試験もさんざんでした。

その当時はわからなかったことが、今ならわかります。大事なものは結果じゃない、どうしてもそれにとらわれてしまうけれど、そんなことを気にしなくてもいい。勝っても負けても、一番大事なものはそこまでの過程だったのだと。結果は自分たちの努力した、そのものではない。努力と結果はイコールなのではない。悪い結果が自分たちのしてきたことをすべて否定するものではない。自分たちが努力してきたことは自分たちがよく知っている。その価値は自分たちだけが知っているのだ。結果はまわりに見せるものであって、自分たちの努力、がんばったことになにも恨み言を言う必要はない。だって、私たちRチームが最高なんだから！

今日の月はひときわ丸い。今日は中秋節。これが初めて家族と離れて過ごす中秋節。一人故郷を離れて異邦人のつらさをしみじみみみと感じて。家族と動画でチャットして、みんなの笑顔、大ききさもばらばらで、甘ったるい月餅を食べて、そして一番大事な猫。あることは、真面目に向かうことが負けなのかも。初めて本気で家のことを思ったとき、自分が強くはないんだってことにやっと気付く。電話を切るその瞬間、涙がおちはじめようとし、それをぐっとこらえ、自分は強いんだって言い聞かせる。

Get up and try

2013.10.11

日本にきてもう1ヶ月。時間の流れが早くもあり、遅くも感じられる。

もっとたくさん友達が出来るんだろうと思っていたけれど、それは叶わなかった。そこでわたしは再度自分の態度や考え方、自分自身を省みようと思った。わたしがあまりに多くのものを求めているんだろうか？それとも自分のコミュニケーション能力が欠乏しているからか？わたしは自分自身を疑うようになった。

ここでのわたしは、毎日少しずつ変わっていている。ここで直面した挫折の数々は本来わたしが想像していたものとは遠くかけ離れたものだ。中国を発つとき、日本語の先生がほぼ毎日のようにわたしにこう聞いてきた“日本に行っていじめられたりしないかしら”。この問いにわたしは逆にこう聞き返したものだ“わたしがいじめられると思う？”色々なことを経験すれば、自分は強くなると思っていたし、どんなことが起きようとも、わたしは適切に対応が出来ると思っていた。幸せや楽しさは自分から積極的に探しにいかなくてもいけないものだって。でもいつからだろう。それらはどこを探しても見つからなくなっていた。

中国にいたときのわたしは、少し過激だったしおかしなところもあったと思う。わたしがイライラときはいつも、仲のいい友達がわたしのことを理解してくれて、励ましてくれた。友達とおしゃべりをして、ちょっと愚痴って、わたしのイライラの原因に対して一緒に不満を言い合って、そのあとどっか遊びに出かけたらもう気分もスッキリしていた。生きていく中でどうしても人と馬が合わなかったり、衝突があったりしたとき、友達はわたし側に立って一緒に喧嘩をしてくれたり、見えないところでその人をやっつけてくれたりして、そうして自分が気に食わない人が狼狽している様を見てると、自然と怒りも収まっていた。わたしはいつも“他人が犯して来なければ自分も他人を犯さず、他人が自分を犯して来れば、自分も必ず他人を犯す”の原則に則って生活していたのだけれど、その中でわたしはもっとも大切なことを忘れていたのかもしれない。それが――許すということ。他人を許し、自分を許すということ。問題の原因を自分において、自分の中で間違っているところを探す。なんだかんだ言っても相手を許すよりは自分を許すほうがはるかに楽だから。

中国にいるとき、わたしはほんとに自分のことだけだった。周りに助けられて、今思うと完全に手放しに可愛がられ愛されていたわたしは、こうしてハリネズミみたいな性格になってしまったのだ。わたしは不満を抱えると、すぐに自分の思いを口にし、ところ構わず吐き散らしていた。しかし今日本で、これらは全て無視されている。こういう状況はわたしにとってとても耐えられるものではない。

納得出来ないことが発生したとき、わたしはなによりもまず冷静になり、理智的にそれと向き合わなくてはならない。言い返そうとはせず、相手の立場になって物事を考えなければならぬ。いつも助けてくれた友達がすぐ傍にいないということに、はじめはすごく戸惑ったし、どれだけイライラしていてもそれを吐き出す先がないため心の中にどんどん色んな気持ちが積み上げられて、今にも暴発しそうだった。でも次第に、夜一人で出来事全体を冷静に考え直したとき、相手がそういう行動をとるのも理由がないわけではないということに気付いた。試しに、相手の考えていることを理解しようとしてみた。けれどこれは思っていた以上に難しかった。最初はどうしてもイライラの方が勝ってしまう。冗談じゃない。悪いのは全部相手なのにつけてこう思う。しょうがない、相手は相手、わたしはわたし。なんで無理して相手の気持ちを考えなきゃいけないの？そして最終的に冷静になって完全に相手の立場になってこの問題をみたときに、なあんだって。相手がわたしに散々となりつけていた原因はこれなんだって。この一連の過程で心身ともにすごくダメージを受けるけれど、最後には自然と怒りも収まっているし、全てのことに對して優しい気持ちになってるんだ。

でも、ここでわたしはまた考える。この変化は有意義なものなのだろうか？わたしは最後には全てのことに對して笑って見せて、どんなときでも相手の気持ちを考えて理解して。これでは自分を見失うんじゃないのだろうか？わたしは相手を理解しようとしているのか、それとも盲目的に相手を模倣しているだけなのか。他人の世界の中に生きているだけなのか？そして最後の最後に、わたしはまだ自分の考え方や個性を保ち続けていられるのだろうか。自分という人間として生きていけるのだろうか？これらの答えをわたしはまだ見つけられていないけれど、きっとどこかに一番バランスのとれた答えがあるとわたしは深く信じている。ただそれをまだ見つけられていないだけ。

個性とは存在証明する上でなくてはならないものだと思っている。けれど、個性は才能をひけらかすことでも、気が利いて抜かりがないということでもない。ハリネズミを抱きしめたいと思う人もいないし、ツルツルのボールを掴める人だっていない。つまり、全ての人に好かれようというのは無理なことなのだ。先日日本の友達とおしゃべりしていたときのこと、彼女はわざとか無意識にか、陰口を叩く人のことを話題に出した。その子が言うには陰口は日本人共通の欠点なのだそうだ。日本人が人と接するときの態度は非常に曖昧で、相手と直接衝突を起さしたりしないようにするため、こういう現象が引き起こされるのだという。これにはわたしも全く理解が出来ない。目の前では仲良くしているのに、その人がいなくなったら悪口をいうなんて。どうして嫌いな人の前で笑えるのか、わたしには全く分からない。この人たちも大変なんだな。色々考えたけど、こういうことをする人はもう無視しようと思う。気にすることは他にもたくさんあるし、彼らのゲームに付き合ってる時間はないんだ。

自分の態度を改め、こんなにたくさんの決定を下し、人との接し方をこんなにたくさん考え、こんなに長い日記を書いて、こんなにたくさん知りたくもないこと知って。最後にわたしが伝えたいのは、わたしの心だって疲れるんだということ。

久しぶり

2014.02.23

日本での日々が少しずつ過ぎ去っていくにつれ、自分も少しずつ成長していている。成長は目に見えないもので、自分では気がつかない時もあるけれど、夜中に中国の友達と話していると、友達が笑いながら“最近丸くなったね”だとか“キャラ変わったね”などと言う。

もちろん、私は何事にも二面性があると思っていて、自分の変化にはいい部分も悪い部分もあるのだと思う。でもね、他人の目なんて気にする必要ないし、他人の毎日のしつこい評価なんて気にする必要ないんだ。他人は絶えず評価をし続けるものだし、自分で自分を追い込んでも、最後は自分が苦しむだけ。自分が好きな自分でいれば、それでいい。

日本人と接して感じたのは、日本人はとても率直だということ。間違いを犯したらすぐに謝る。謝れば相手もすぐにそれを許す。このことが人と人との付き合いをとてシンプルに、容易にしていると思う。片方は間違いと知ればすぐに改めて、片方は寛容にそれを許す。小さなことを根に持って自分の利益のことばかり考えているようなのよりずっと良い。本当に。

あと日本人は一つ一つのイベントをとて大切にしている。お正月には年賀状を夜遅くまで書いたし、バレンタインデーの前日には手作りのチョコレートを一つ一つ心をこめて包装して、友達の誕生日には、皆でお金を出し合ってプレゼントを買った。どれも中国では経験できないこと。この一年でこのような心の温かい友人達に出会えて、本当に良かった。

年賀状の住所は、一人ひとりLineで聞いた。こちらが住所を尋ねれば、日本人は自然とこちらの住所も尋ね返してくれる。それが社交辞令だろうと本心だろうと、聞いてくれるというのは「あなたを思っている」という表現なのだから、とても幸せなことだ。中には返事をしてくれなかった人もいたけれど、その人達の冷たい態度を恨むよりも、周りの重要な人達を大切にすることの方が、ずっと大事だ。

バレンタインの前日は本当に大変だった。クラス全員にチョコレートを一つ一つ包装した。自分では上出来だと思っていたけど、翌日に皆が作ったティラミスやプリンを見たら、私のチョコレートは一瞬で霞んでしまったな。皆本当に女子力が高い。皆が笑って、食べて、お礼を言い合う姿を見ていたら、心がとても温かくなった。

皆で準備した誕生日のサプライズ。まずはお金を出し合ってプレゼントとケーキを買った。お昼に主役の彼女を教室から連れ出した後、皆で黒板にお祝いのメッセージを書いて、教卓にプレゼントを置いて、ケーキにろうそくを挿して。彼女が戻ってきた途端に、全員で誕生日の歌を歌った。彼女はそれを見てしばらく呆然。彼女がドアの前にうずくまって、顔を覆って、泣きながら皆にお礼を言っていたあの情景を、私は一生忘れないだろう。その日はたくさん写真を撮って、とても楽しかった。

たぶん私の書いた事は多くの人を経験したことだろうし、特別なことでもない。でも、日々がこの小さな幸せで満ち溢れていたから、日本での生活を寂しいと感じることはほとんどなかった。

時々思う。この一年が本当に夢のようだと。帰国したら、もう二度とこの人達とは会えなくなるかもしれない。だからこの一年の生活態度は本当に重要だ。毎日なあなあに過ごすこともできる、毎日不満ばかり言って過ごすこともできる、毎日苦しみの中で過ごすこともできる。どのみち、この一年が終われば、もう二度と戻ってこないのだから。でも、彼らと過ごす毎分毎秒を大切に思えば、この一年を有意義なものにすることができる。こう過ごしたいというビジョンがあるなら、そうなるような態度を示していればいい。